



# たかまつ

発行日 令和8年2月27日

学校だより 令和7年度3月号

豊島区立高松小学校

校長 坂本貴史

## 「いい子だね」と「頑張ったね」の違い

校長 坂本貴史

朝、通学路を歩きながら、道端のごみを拾っていると「おはようございます」の声とともに「校長先生、ありがとうございます！」と声をかけてくれる児童がいます。大人になっても、「褒められる」ということは嬉しいもので、ますます頑張ろうという気持ちになります。高松小学校の児童は、自然と感謝の気持ちを言葉にできる素敵な児童がたくさんいます。先日の全校朝会では、挨拶の話をオリンピック選手と関連させて「[高松小の小さな外交官（2月12日）](#)」の話をしました。お時間あるときにリンクから御覧ください。

同じ「褒める」にしても、その「褒め方」を間違えると、逆効果になることもあります。つまり、何を「褒めるか」です。そのヒントとして、アメリカの心理学者ミュラーとドウエックの研究（1998年）を紹介します。ドウエックは日本でも「[マインドセット やればできるの研究](#)」の著書として有名です。

アメリカの公立小学校 10歳から 12歳児童を、ランダムに3グループに分け、IQテストを3回行います。3つのグループにテスト後、それぞれ異なるフィードバック（A、B、C）を与えます。

A もともとの能力を褒めるグループ。例「あなたは頭がいいのね」「いい子だね」

B 努力を誉めるグループ。例「あなたはよく頑張ったね」「立派な態度ね」

C 何もフィードバックを与えないグループ

① 1回目のテストをした後、1回目より難しいテストを行う。（挫折経験）

② その後、1回目と同じ程度のテストを行う。（挫折経験後の挑戦）

③ 1回目と3回目のテストの結果をグループごとに比較する。

結果は以下の通りです。

**B 努力を誉める > C 何もしない > A 能力をほめる**

Aのもともとの能力を褒められたグループは、挫折経験から挑戦意欲を失い、成績が低下し、テスト結果をごまかそうとする態度まで見られました。

Bの努力を誉められたグループは、難しい問題にも粘り強く挑戦を続け、成績が向上する様子が見られました。

Cの何もフィードバックを与えないグループは、その中間でした。

もちろん、全ての児童がこの結果の通りになるとは限りません。しかし一つのヒントになるのではないのでしょうか。

先日の走るんピックでも、保護者の皆様の応援とともに、児童同士が励まし合う素敵な場面が多く見られました。その様子も全校朝会で話しました。「[走るんピックで見つけた！仲間と高め合う力（2月20日）](#)」

3月は今年度のまとめの月であるとともに、進級・進学する次年度への準備の月でもあります。学校ではこれまでの児童の頑張りや成長を認め、その努力を大いに励まして参ります。今年度も高松小学校に温かい御支援と御協力を賜り、ありがとうございました。新年度もどうぞよろしくお願いいたします。

学校ホームページにも掲載しております。紙面でご覧の皆様におかれましては、リンク先の記事はホームページで確認できます。